

～その灯油、そのまま使って大丈夫！？～

# 不良灯油にご注意を！

「消太くん、ストーブを用意する」の巻

①

おじさんが寒いというので、ストーブ出してあげたよ。

ありがとう。早くいっしょに温まろう。



②

灯油は物置にあったから、ぼくが入れておくれ。

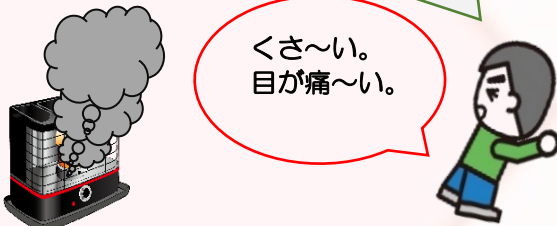
去年から持ち越した灯油



③ 数日後・・・

あれ～!!?、消したのに消えていない??


くさ～い。目が痛～い。



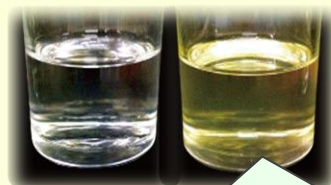
④

ストーブはまだ故障していなかったし、灯油は去年からあったのをを使ったよ。だって、捨てるのもったいないし・・・

どうして!?



これは、不良灯油だったのではないかな？  
灯油は無色透明だけど、黄色く変質しているのが不良灯油。酸っぱい臭いがすることもあるよ。



こちらが不良灯油。このようになった灯油は使用せず、購入先や最寄りの石油販売店に相談してみましょう。

灯油は、徐々に酸化して成分が変わります。また、空気中の水分が混じることもあります。前シーズンに使い切れずに残った灯油や、長い間保管したままの灯油は、変質して”不良灯油”になっている可能性があります。特に暖房器具への使用前には、よく状態を確認しましょう。

「不良灯油の使用禁止」 (一般社団法人日本ガス石油機器工業会ホームページへ)

